

授業科目(ナンバリング)	地域産業の魅力 (CA222)			担当教員	森尾 真之		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本講座は、大学のある地域産業の成り立ちや地域の課題についての理解を深め、その課題解決のために、観光やまちづくりなどを通じた地域活性化のリーダーとして活躍することを目指し、さまざまな企業・団体から派遣される講師から事業の取り組みや実践について学ぶ。また、講師とのディスカッションやレポート作成を通じ、それぞれの活動の背景にある理念や考え方に触れ、社会に貢献し、自分らしい働き方とは何かを考える。							①②⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分が関心のある課題については、その背景や担当講師の所属する企業・団体に関してさらに詳しく説明できる。				課題レポート (manaba)	50%	
情報収集、分析力	講師の所属する業界・団体の具体的な取り組みについて、その背景や目的、他での先行事例などについて事前に情報収集し、講義の内容をより深く理解することが出来る。				課題レポート (授業ノート)	10%	
コミュニケーション力	(1) グループディスカッションにおいて、他者の発言を傾聴し、同時に活発な意見交換を行うことが出来る。 (2) 講義を通じて生じた関心事や問題意識を、与えられた字数制限内で的確に文書で表現することが出来る。				グループディスカッション報告書	10%	
協働・課題解決力	(1) グループディスカッションにおいて、積極的に役割を引き受けることが出来る。 (2) 活発な意見交換を通じてグループとしての結論を出すことが出来る。				グループディスカッション報告書	10%	
多様性理解力	地域経済活動における様々な産業がどのように状況にあり、地域の魅力を向上させるためには、どのような組み合わせがどんな価値を創り出すのかを、これまでの実例から理解することができる。				課題レポート (manaba)	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
(1) 指定の授業ノートの記載とmanaba上の課題レポート(計10回、配点合計 80%)では、毎回の講義のポイントを授業ノートに記載し、自分が特に興味を持った地域課題について、自分自身の問題意識と考えられる方策についてレポートとして記述することを求める。Manabaでの質問については、ゲストスピーカーからの回答を講義中に紹介し、学生へのフィードバックとする。 (2) グループディスカッションにおいては、誰がどんな役割を引き受けたかどうか、そしてグループとしてどんな結論が出たのかについてグループ単位で報告書を作成することを求める (20%)							
授業の概要							
地域課題や観光・まちづくりに関する現役の実務家である外部講師と旅行業界においてインバウンド観光客招致等を通じた地域活性化の実務経験のある担当教員との協働による実践的な授業である。 (1) 県内外の企業・団体、自治体から派遣された経営管理者、専任担当者がゲストスピーカーとして講義する。 (2) 講義後に行われるゲストスピーカーと担当講師とのディスカッションに指名された学生も参加し、コメントをする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし(※ただし講義中に講師から推薦される場合もある。) 指定図書：「伝えることから始めよう」高田明著 東洋経済新報社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本講座のために各産業界から講師を招聘しているが、多忙のなかで本学に来ていただく講師への礼儀としても、時間厳守、真摯な受講態度を求める。地域ならではの豊かな生き方、働き方の質の向上は、観光面でも大きな影響を及ぼすことから、講義内容は多岐にわたるが、地域におけるあらゆる課題についての見識や教養が必要であることを十分理解してほしい。各講師の豊かな経験と積極的なライフスタイルから、今後の自身のキャリアや生き方を考える上で大切な気づきになるよう、積極的に参加してほしい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	シラバスの説明、長崎県の地域課題の背景やポイントを整理して考える。また、各予定外部講師の簡単な紹介やしかるべき対応態度などの注意点について説明。	予：シラバスを事前に読み込んでおく
2	地域課題について	少子化および高齢化に関する取り組みについて、移住促進や若者定住施策、地域コミュニティ活動支援についてまなぶ（ゲストスピーカー・実務家）	予：自分の生活環境について良い点と悪い点を書き出しておく
3	地域から起こすビジネスイノベーション	課題の多い地方において、新しいビジネスを創造し、地域で積極的に生きていくうえで大切な見方、考え方を学ぶ（ゲストスピーカー・実務家）	復：現状の自分に過去の出来事が影響していることはないかを考える。
4	地域の会社ができる価値創造①	都会ではなく「地域の会社だからできること」でどんな価値を生み出せるのかについて。（ゲストスピーカー・実務家）	復：自分の地域で誇れるものとその理由を考える。
5	地域の会社ができる価値創造②	地域に根差す企業がその組織の存続において、地域の共通価値（社会的包摂）や持続した社会貢献が必要であることを学ぶ（ゲストスピーカー・実務家）	復：地域の企業の社会的な存在価値と働く人の意識について考える
6	地域の会社ができる価値創造③	地域と都会との比較において語られる「豊かな暮らし」と定住人口の増加につながる取り組みについて学ぶ（ゲストスピーカー・実務家）	復：都会と地域の暮らしのメリット・デメリットを考える。
7	市街地の再活性化と観光街づくり（佐世保市）	街のにぎわいを維持することに必要なことは何か。住んでよし、訪れてよしという観光まちづくりとはどんなものかを考える（ゲストスピーカー・実務家）	復：自分の街の気に入った場所を人に勧めるにはどう説明するかを考える。
8	これからの働き方と地域の魅力の発掘の取り組み（波佐見町）	自分の価値向上は、地域の価値を考えることにもつながる。地域における事業創造と自分の生き方における豊かさとは何かを考える。（ゲストスピーカー・実務家）	復：自分が提供できる価値は何かを他者と意見を交換する。
9	地域観光と教育について（平戸市）	縮小する地方コミュニティの維持には都会との格差を解消しつつ地域への愛着を持たせる教育が不可欠であり、そのための「学び」と「体験」の重要性を理解する。（ゲストスピーカー・実務家）	復：地域に関して学ぶことの大切さを、今の自分と比較して整理する。
10	地域における広域連携による経済・観光圏の構築（大村市）	大消費地からの需要だけでなく、各地域での取り組みを地域間連携によって経済圏や観光圏を構築することで創出できる需要とインバウンド（着地型観光）の可能性について考える。（ゲストスピーカー・実務家）	復：大村湾岸で3日間過ごせる観光プランを考えてみる。
11	移住者を呼び込むにぎわいづくり（東彼杵町）	地域におけるコミュニティによる移住者への生活面やビジネスでの支援を通じて、多様性を持つ地域の魅力について考える。（ゲストスピーカー・実務家）	復：自分の住む地域で変わってほしいことは何かを考える。
12	地域商社の仕事と産品ブランディング（西海市）	地域コミュニティの構築のための、新事業の創出と農産品や水産物のブランド化の取り組みについて学ぶ。（ゲストスピーカー・実務家）	復：地域での新事業のアイデアを考えてみる。
13	グループディスカッション	これまでの学びについて各自課題設定を行い、グループディスカッションで発表し、他の発表者の参考になった部分をレポート提出する。	予：自分が設定する地域課題についてその理由を明らかにしておく。
14	経済と自分たちの暮らしについて	豊かな暮らしと収入は比例するのか、地方と都会はどうなのか、自分らしく働くとはどういうことなのかを考える（ゲストスピーカー・実務家）	復：自分の生活におけるお金の使い方について考える。
15	授業の振り返り	課題レポートとルーブリックについて説明する	復：これまでの授業ノートを振り返る。